

平成 21 年度第 2 回府中市美術館運営協議会結果報告書

- 1 日 時 平成 21 年 11 月 28 日 (土) 午後 1 時 30 分～ 3 時 30 分
- 2 場 所 府中市美術館会議室
- 3 出席者 委員 (順不同・敬称略)
中林、小野澤、蔵、鈴木、松浦、那須、藤原、上岡、宮本委員
(田中、宝木、深津委員欠席)
事務局 井出館長、青木管理係長、志賀学芸係長、武居教育普及担当主査、杉崎、関主任
- 4 内 容
 - (1) 府中市美術館運営協議会会長挨拶
 - (2) 府中市美術館館長挨拶
 - (3) 資料確認
 - (4) 議題の審議
- 5 議 題
 - (1) 地域における府中市美術館の運営のあり方について
資料について事務局から説明、報告の後、質疑応答がなされる。

[主な審議内容]

(中林会長) 本協議会も後 1 回で意見を集約し、提言をまとめたい。本日の流れとしては皆さんのご意見をいただき、会としてまとめたものに集約していきたいと考えている。

まず、上半期の観覧状況について、各自ご覧いただいた展覧会の内容を含めて、市民のための運営という観点から今年度の企画展の内容についてお話を進めたい。

事務局 年間スケジュールに基づきご説明させていただきます。まずは「山水に遊ぶ展」、桜の咲く頃に定着しつつある近世絵画の展覧会で、本来実施しがたい年度またぎの展覧会ではあるが、春先には楽しい展覧会と定着しつつあります。入場者数は 4/1 から 5/10 の 35 日間で 11,832 人。次は「純粹なる形象 デイター・ラムスの時代展」、日常生活の中の家電製品などデザイン系の企画展で都内の学生やデザイン事務所の方などが多く来館し、初めて武蔵野美術大学の学生との連携で講演会を実施しました。入場者数は 51 日間で 9,787 人。夏休み向けの企画としては「ばれたん探検隊展」、体験型の展覧会で、親子連れや子ども同志で来館することが多く、所蔵品である作品をわかりやすく展示する見せ方は子どもたちに好評でした。美術館のキャラクターである「ばれたん」は子どもたちの人気を集めました。入場者数は 32 日間で 7,606 人。「多摩川で／

多摩川から、アートする展」は多摩川に関わる作品を集めた企画展で、リピーターの多い展覧会でもあります。ワークショップとして実施した「サイトシーイングバス」は大変好評でした。入場者数は39日間で3,741人。今後、現在開催中の「ターナー展から印象派へ」、3月後半からの「歌川国芳展」が予定されています。常設展の入場者数は157日間で34,065人、市民ギャラリーは13,397人。その他、公開制作、開館記念無料観覧日には「府中の森の文化まつり」として近隣3館の共同企画をそれぞれの館で実施しましたところ、5,987人の来館者を記録しました。

(中林会長) 今の内容に関連しましてご意見やご質問を伺いたい。

(藤原委員) 文化まつりに参加できなくて残念であった。古書市があったと聞いたがどのような状況だったのか説明してほしい。

(小野澤委員) 実際にボランティアとして参加していたが、文化まつりの説明や当日のレイアウトなどを簡単に説明しました。ただ、ご存知ない方も多く、広報活動は足りなかったように思う。また、静かに見られる美術館としては少しにぎやかだった。

事務局 今年テストケースであり、今後は都立府中の森公園の協力などもいただいて、来年に向けてしっかりとしたイベントにしたい。来年は10月17日を予定しています。

(藤原委員) チラシについてはシンプルでわかりやすいものがよい。今回のチラシはカラフルすぎてわかりづらい面があったように思う。

事務局 当日のアンケートによると、広報ふちゅうが多いが、チラシやポスターもまた、市民だけに限らないが情報伝達率は高いと思われる。掲示場所や配布先を増やしていきたい。

(小野澤委員) 当日、市内でのイベント「農業まつり」などと重なった割には、たくさんの人に来ていただいたと思う。

(那須委員) なぜ、美術館に来ないか、来にくいのか、と考えた時、ポツンとある、駅から離れているなどがあげられるのではないか。何かをしながら美術館にたどりつくといったようなルートができればよい。

(中林会長) 文化まつりは3館が同じ日にイベントを実施したことで人が集まり、効果が大きくなった。予算的にはどのようになっているのか。

事務局 芸術劇場はパイプオルガンのコンサートを実施したので出費大と思われる。美術館は例年の事業程度。アートマーケットは実現できなかったが、今後検討したい。

(上岡委員) アートマーケットとはどのようなものか。

事務局 NPO団体(70団体くらい)が自分で作ったものを自分で販売する。場所代程度の参加費を徴収するようだが、自主性を持った事業展開ができる。

(藤原委員) フリーマーケットなどもどうか。

事務局 来年に向けて検討したい。商店街へのポスター告知も手持ちで展

覧会の見どころを説明しながら配布していて、市民への周知は大きいと思う。メンバーシップも拡大していきたい。

(中林会長) 市制55周年記念事業の一環として、取り入れたのか。

事務局 公園は東京都であり、美術館・芸術劇場・生涯学習センターは府中市であるが、周辺に協調体制ができつつある。公園も協力的で、安定した活動が今後もできると思われる。

(鈴木委員) 小中学校に全校配布したら、人数は集まる。特に周辺小中学校には効果大になると思う。

事務局 無料観覧日については、有料の観覧者は払った分を観て行こうとする気負いがある。反対に無料だとゆったりとした気持ちで観覧できるし、気楽に観ていただける。

(上岡委員) 「ターナー展」での無料観覧日は素晴らしいと思う。「ターナー展」はどなたでもわかる絵で素晴らしいという間接宣伝で、評判はいい。また、土曜工房は素晴らしい企画と思う。100円から200円の参加費で参加できるし、親も付いてくる。材料費はどのくらいかかるか。

事務局 道具もだいぶ揃っているし、材料はできるだけ安いものを用意している。

(中林会長) 受益者負担も必要である。どこの範囲であるかを周知した方がよい。

(上岡委員) 障害者の方は美術館にどのくらい来館しているか。障害者の方は気持ちが素直で、美術を鑑賞したり、解説してあげたりすることが大切なことだと思われる。障害者の方の情報を知りたいがいかがか。

(小野澤委員) 美術館ボランティアとして、土日祝日以外の平日の美術館の様子をよく見ているが、老人ホームや施設の方が職員や介添えの方に付き添われて、車椅子などで来られることが多く見られ、活動のプログラムに組み込まれているように思われる。

(中林会長) その他のことで何かご意見はないか。

(宮本委員) 企画展の題材はどのようにして決めているのか伺いたい。地域における府中市美術館のあり方も含めて、誰がどこでどのように決めているのか伺いたい。また、入場者数、企画展による来館者数を見ると人気、不人気がわかる。地域的に市民は何を望んでいるのか、過去何年間からの数字を見てほしい。決め方について伺いたい。

事務局 最終的には館長が決める。企画展については学芸員が自分なりのテーマを企画提案し、または外部の業者によるプレゼンテーションを行い、学芸会議で意見を出し合いながら、館長が調整していく。

(宮本委員) 学芸員は何人いるか。

事務局 当館には6人の学芸員がいます。

(中林会長) 作品の借用先の有無や許可、コストの問題などもあるので、一概にやりたいからやれるものではないと思うが、府中市美術館は従来から企画

力の評価は高い。

(松浦委員) 今年のプログラムはよくできている。日本近世の絵画、近代デザイン、常設作品による夏休みの企画、現代系、西洋近代絵画と企画能力は優れている。入場者数だけで企画を論じるのはよくないと思う。また、無料観覧日は素晴らしい試みである。しかしながら、美術館には適正規模がある。2000人を超えたら鑑賞性が薄れるし、作品を観る場ではなくなる。ティーンズスタジオのプログラムは素晴らしい企画で、子どもたちの参加が多く、プログラム自体も小学生の子どもたちが自ら作りたくなるようなものがよい。入場者数が少ないとは言え、「多摩川展」は良い展覧会であり、子どもたちは大人より柔軟にこの展覧会を受け入れていました。

(中林会長) サイトシーイングバスの企画はとてもよかったと参加者に感想を聞いたが。

事務局 企画展と関連性があるワークショップで、美術館連絡協議会の助成金を受けている。学生がとても熱心に関わってくれて、たいへん好評でした。

(那須委員) 参加した子どもたちが説明する学生にいろいろな質問をしていて楽しそうだった。公園に遊びに来ていた子どもたちが誘い合わせて来ていたので、子ども対象のイベントではなかったが、恒常的なイベントとして取り上げてみたらどうか。

(藤原委員) 適正人数とは？最終的には大勢の人が来たらその時に対応を考えると、もっともっとたくさんの方に来てもらえる美術館にしてほしい。

(中林会長) 無料観覧日は特別な日としてとらえた方がよい。

(藤原委員) 「ターナー展」は多方面から評判がよい。

(小野澤委員) 府中の森芸術劇場のアートマーケットが開催された際、美術館のPRコーナーで「ターナー展」のパンフレットを配布したが、たいへん好評で、ポスターを見て立ち止まる方も多かった。ご質問や問い合わせも多く、関心の高さを感じた。

(藤原委員) 「ターナー展」は府中市美術館単独の企画かお尋ねしたい。

事務局 「ターナー展」は巡回展である。豊橋市美術博物館から岡山県立美術館、府中市美術館を最終会場として交渉して平成22年2月14日まで開催し、もう一度行きたい美術展として会期を長くしました。

(蔵委員) 常に中学校の視点から美術館を見ているが、今年の夏休みの企画は充実していた。体験を通して美術館を知る良い機会となり、生徒たちにも勧めることができた。おもしろいことはやってみたいことにつながり、もう一度美術館に足を運ぶようになる。来年もこのような企画を計画してほしい。「ターナー展」は、1月の第2週目にある北多摩中学校美術展と重なり、市民ギャラリーに来た方が2階の企画展も見るので集客につながる。

ティーンズスタジオは3年目になるが、とても盛況になってきていると思う。中学1年生は参加するが、中学2年生になると行かなくなるなど年齢設定がむずかしいと思われるが、美術館は交通が不便なので、ぜひ交通手段を確保して

ほしい。

(上岡委員) 府中市の予算について、余裕はあるのかお尋ねしたい。

事務局(館長) 厳しいと言える。今までよりも経常的経費は削られているが、来年度は10周年であり、それに向けてがんばりたい。

(鈴木委員) 小学校の鑑賞教室が「ラムス展」であった。日常的な家電製品などもあり親しみやすく、これも美術なんだと関心が高まったように思う。鑑賞教室などを通して、美術館とはこんなに素晴らしいものなんだと体験させ、心に残るものにしたい。学校のホームページに載せて、常に美術館からの情報をPRしている。小学生は「学びのパスポート」を持っているが、やはり親と一緒にでないと行けない年齢なので、保護者も取り込んだ方がよい。

事務局 「ばれたん探検隊展」は7,606人であったが、未就学児・小・中学生は57%だった。参考までに他の企画展は「山水展」2.3%、「ラムス展」11%、「多摩川展」12.7%であった。「ばれたん展」は同じ子どもが何回も来るということも見られた。

(小野澤委員) 夏休みが終わってからも「今日は何か作れないの?」と聞かれる場面が多くあった。夏休みに素晴らしい体験を親子でできたと思う。

(中林会長) アンケートなどはとっていないのか。

事務局 実施している。アンケートをもとに専門機関の協力を得ながら、評価システム作りをしており、今年度中にツールを立ち上げ、来年度から運用を始めたい。

(中林会長) 予算のことも含めて事務局(館長)から今後のこととお話しいただきたい。

事務局(館長) 皆様から貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。現在、来年度の予算編成を進めているところである。全体的な経費の削減から事業の内容を見直し、平成22年度はレベル自体は落とすことなく、企画展を5本計画している。現状では職員の超過勤務が多いので、企画展を減らすことで調整していきたい。春は連休明けに海外作家の巡回展で、親子連れで来館できるものにしたい。夏は常設展を主体とした展覧会で子どもと親を対象としたもの、秋は10周年記念展として近代洋画の流れを、1860年代のバルビゾン派の作品をフランスの美術館から出品協力を得て企画したい。冬はピエンナーレを発展させて、市民を巻き込むようなおもしろい現代系の展覧会にしたい。新たにサテライト的な展示も考えている。最後に桜の季節は江戸の絵画展を考えている。また、開館日数も可能な限り拡充したい。それとともに市民ギャラリーでは物故作家や在住作家による展覧会を、美術館も関わりながら実行委員会形式で実施したい。研究の成果としては、所蔵品目録や年報・紀要の充実を考えている。開かれた、敷居の低い、来やすい美術館をめざして、厳しい財政状況下にあっても、中身は充実したものにしていきたい。

(中林会長) 今後の予定について事務局からお願いしたい。

事務局 美術館運営協議会委員の任期は平成 22 年 8 月いっぱいとなっています。6 月までに事務局と会長、副会長で素案を作成し、事前に各委員にご覧いただき、次回会議で検討後、まとめたいと考えています。

(中林会長) 次回の会議までに素案を作成し、提示いただき、検討協議して答申を作り上げたい。今後も皆様にはたびたび美術館に足をお運びいただき、様々なご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

その他
なし